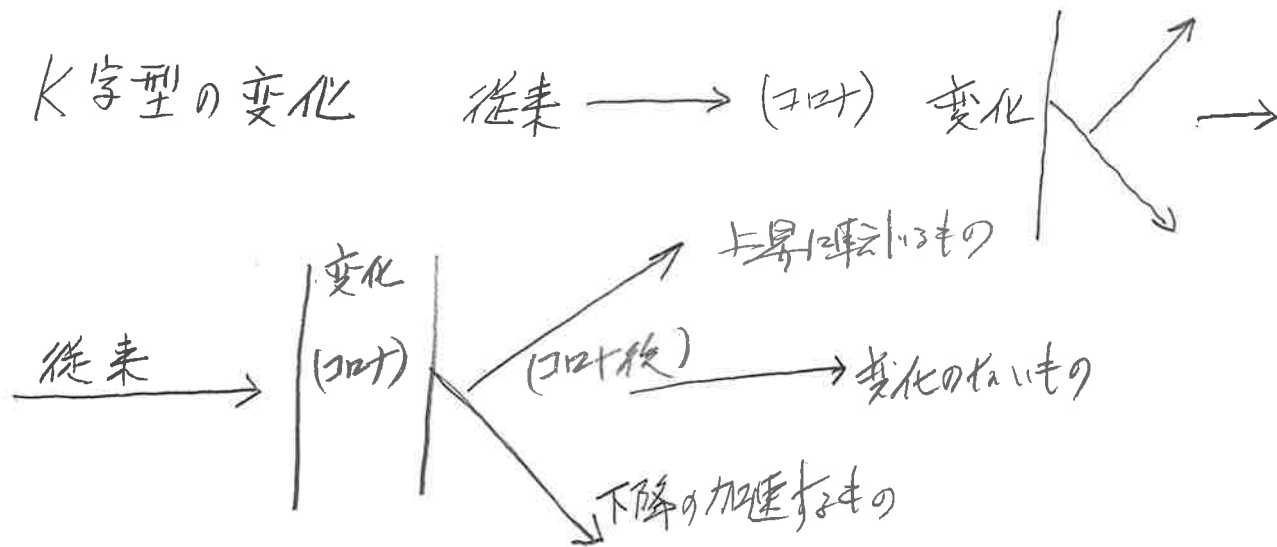


2

今後の世界

2022.05.22
2022.05.09
2022.02.14

1. 時代は大きく変わる状況が生まれている
2. 米、中、露は人口増加
日本は人口減少
3. 筆力の始点は、事実を事実として記述することの勇氣である
石原恒太郎
4. 人間の価値— ^{変化} (コロナ)



^{変化} (ロシア)

従前の状態には戻らない。
その前提に 思考し、行動する必要がある。
新しい状況に 対応していくようにする

5. 変化のきっかけ

Dr. 物		Cr.
卸売特価 (仕入)	↑ ○	債務 ↑
人件費 →		売上 ↑
従業員数 →		株価 ↓ ◎
人口 ↓		消費物価 → ○
付加価値 ↓		企業業績 ↓
在庫 ↑		給料 →
GDP ↓		外国為替 ↑ ○
		石油価格 ↑

変化の結果起こるもの、きっかけ

① 世界が100年毎に感染病にかかっている

1720年 ノスト (フランス)

1820年 コレラ (世界)

1920年 スペイン風邪 (世界)

2020年 コロナ (世界)

1920年代以降と2020年以降に
似ている。

Economic Indicators

発表日: 2022 年 3 月 10 日(木)

企業物価指数(2022 年 2 月)

～前年比+9%超の大幅上昇。エネルギー関連が牽引する展開が続く～

第一生命経済研究所 経済調査部

副主任エコノミスト 大柴 千智 (Tel: 03-5221-4525)

(単位: %)

		国内企業物価			最終消費財 (国内品)		国内企業物価 (連鎖指数)		輸出物価 (円ベース)		輸入物価 (円ベース)	
		前月比	前月比※	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比
2021	2月	0.5	0.5	▲ 0.6	0.5	▲ 0.2	0.6	▲ 0.5	1.2	0.3	4.6	▲ 3.1
	3月	1.0	1.0	1.2	0.6	1.2	0.9	1.1	2.8	5.5	3.9	5.8
	4月	0.9	0.9	3.7	▲ 0.1	2.5	0.9	3.5	1.8	8.5	2.6	15.4
	5月	0.7	0.7	4.9	0.0	3.1	0.7	4.6	1.2	11.3	2.5	26.0
	6月	0.9	0.9	5.2	0.4	2.7	0.8	4.9	0.8	11.3	2.7	28.6
	7月	1.1	1.0	5.8	0.5	2.8	1.1	5.6	0.8	11.6	2.2	28.6
	8月	0.2	0.1	5.9	▲ 0.2	2.3	0.2	5.7	▲ 0.2	11.0	2.4	30.1
	9月	0.4	0.5	6.5	0.0	2.3	0.5	6.3	0.4	11.2	1.6	32.2
	10月	1.5	1.7	8.4	1.0	3.0	1.4	8.2	2.6	14.2	4.6	38.6
	11月	0.6	0.6	9.2	0.2	3.4	0.7	9.1	1.1	15.3	5.5	45.3
	12月	0.0	0.0	8.7	▲ 0.4	2.3	0.0	8.7	▲ 1.0	13.3	0.0	42.6
2022	1月	0.8	0.8	8.9	0.1	2.7	0.6	8.7	0.6	12.8	▲ 0.3	37.4
	2月	0.8	0.8	9.3	0.5	2.6	0.7	8.9	1.2	12.7	2.0	34.0

(出所) 日本銀行「企業物価指数」

※は夏季電力料金調整後の値。

○ エネルギー関連が牽引して、国内企業物価は前年比 9% 台の大幅上昇

2月の国内企業物価は、前月比+0.8%（コンセンサス：同+0.6%、レンジ：同+0.2%～+0.8%）、前年比+9.3%（コンセンサス：同+8.6%、レンジ：同+8.1%～+9.0%）となった。前年比では9%台での極めて高い上昇となった。長期化する原油価格の高騰により、エネルギー関連が国内企業物価の上昇を牽引する展開が続いている。

前月比の内訳は以下の通り。ガソリンや軽油といった石油・石炭製品が前月比+3.0%（寄与度：+0.22%pt）、電力・ガス・水道が同+3.4%（寄与度：+0.22%pt）、化学製品が同+1.0%（寄与度：+0.08%pt）と、エネルギー関連がそれぞれプラス寄与した。世界的な需給逼迫により長期化している原油高だが、年明け以降はウクライナ情勢の緊迫化がさらに拍車をかけたこともあり、国内企業物価においても伸びを高めた。また、世界経済の回復から国際商品市況で高値が続いている非鉄金属が前月比+1.5%（寄与度：+0.05%pt）、鉄鋼が前月比+0.4%（寄与度：+0.02%pt）となり、それぞれ上昇が続いた。

○ 交易条件の悪化が懸念

輸入物価指数は、契約通貨ベースで前月比+1.7%（前年比+25.7%）、円ベースで前月比+2.0%（前年比+34.0%）となった。前月比プラスとなるのは2カ月ぶり。オミクロン株の出現により一時的に軟化していた原油相場だったが、年明け以降ウクライナ情勢の緊迫化が急激に進んだことで再び



2022 年の経済

2022.01.19

No.	事 態(理 由)	結果予想
1.	コロナ融資 35～40 兆円 年明けの緊急事態宣言	2022 年～返済義務 公的機関の信用リスク 企業の債務超過
2.	スーパーのデジタル化の促進 コロナ特需後の消費反動減 <i>狭い市場での競争激化</i>	競争の激化 縮小傾向の消費 既存店の売上低下
3.	コロナ後のコスト高 <i>卸売物価上昇 かき引きねん ↓ 景気後退?</i>	企業収益の低迷、失速 本格的な生残り競争 消費者は受入れない 消費者は外食や旅行を控え、 内食需要は高止まりから低下へ 2019 までの停滞復活
4.	反動復元力の乏しい日英経済 21 年 / 20 年比(日英だけは、元へ戻っていない)	

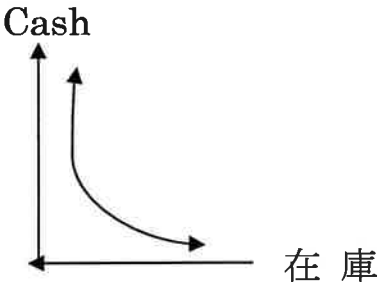
IMF 世界経済の見通し
(実質 GDP 成長率・2021 年 10 月発表) (%)

	2017年	18年	19年	20年	21 1月発表	22 4月発表	21年 7月発表	22 最新値
世 界	3.8	3.6	2.8	▲3.1	5.5	6.0	6.0	5.9
先 進 国								
米 国	2.3	2.9	2.3	▲3.4	5.1	6.4	7.0	6.0
ユーロ圏	2.6	1.9	1.5	▲6.3	4.2	4.4	4.6	5.0
イギリス	1.7	1.3	1.4	▲9.8	4.5	5.3	7.0	6.8
日 本	1.7	0.6	0.0	▲4.6	3.1	3.3	2.8	2.4
B R I C S ・ 新 興 国								
ブラジル	1.3	1.8	1.4	▲4.1	3.6	3.7	5.3	5.2
ロシア	1.8	2.8	2.0	▲3.0	3.0	3.8	4.4	4.7
インド	6.8	6.5	4.0	▲7.3	11.5	12.5	9.5	9.5
中 国	6.9	6.8	6.0	2.3	8.1	8.4	8.1	8.0
ASEAN5	5.5	5.4	4.9	▲3.4	5.2	4.9	4.3	2.9

* ASEAN5 : タイ、ベトナム、インドネシア、マレーシア、フィリピン

▲ : マイナス

△ 30
△ 22

No.	事 態(理 由)	結果予想
5.	最低賃金の上昇 <i>人手不足の中で</i>	人手不足の再開 レジ回りの DX 生産性改善
6.	ネットスーパー	自社とアマゾンとの協業 中小スーパーと大手との連携
7.	個人金融資産の増加 2021.4~6 現預金、株式、債券等 6.3%増 1,992 億円	<u>消費の低迷、控え目</u> <u>経済回復の低迷</u> <u>消費者は値上げを受入れない</u> →消費の減退 <u>競争の激化</u>
8.	在庫－Cash 曲線 	<u>在庫は Cash がある</u> 在庫減 → Cash 増 在庫増 → Cash 減

9. 日本の経済

△可処分増えなか

① 左院内教の表い

② 金利使用量が多い価格 (各口の新結)

③ 税金と後引同額が多い (各口の新結)

④ 算面が多い

(新結の利率 22.1%)
他率は0%前後



問題を解決する程度が必要

6. 何をキッカケに世界は変化するか

何が始まるのか

どこから始まるのか

株価の低落か

石油価格上昇か

金利上昇か

ロシアの攻撃か

久川上インフレ - 川下デフレ (2021.1 → 2022.3 比)

新米部の財政根拠 22.初夏

川上インフレ川下デフレ素原材料 66.8%^{上昇}最終材 5.4%^{上昇}

原油価格 79.2% (4Q)

104.8% (1Q)

財政赤字

2012年度

2021年度

2次制-1.1.1	121	→	643
省生残高	297	→	502

政府債務	992	→	1,216
------	-----	---	-------

2022.05.23

1. 資本金と円高によるコスト抑はけ (現状26 → 将来?)

平均 26の仮定での零金利



消費税3%の増徴と同様の減税効果

2. 借入が 増減に依り 変わる

生活品値上げ負担重く

4月の消費者物価指数の上昇率が2%に到達した。食品やエネルギーなど生活に直結する品目の値上げラッシュで、家計負担の実感はさらに重い。資源高と円安によるコスト押し上げに賃金の伸びが追いつかない現状は、9年に及ぶ異次元の金融緩和で日銀が思い描いた「デフレ脱却による「経済の好循環」とはほど遠い。

(1面参照)

4月消費者物価指数2%上昇

「トイレットペーパーの特売が減り、日用品が高くなったと感じる」。東京都内の小売店を今週訪れた女性客(65)は不安げに話した。全国のドラッグストアで、4月のトイレットペーパーとシャンプーの店頭価格は前年から平均5%上昇(インテリジ調べ)。高価格帯への商品入れ替えが進んでいるという。

消費税3%分

三菱UFJリサーチ&コンサルティングの小林真一郎主席研究員は、消費者物価の2%上昇

日銀の黒田東彦総裁が異次元

政策の不整合

すると予測する。

金融緩和9年 遠い好循環

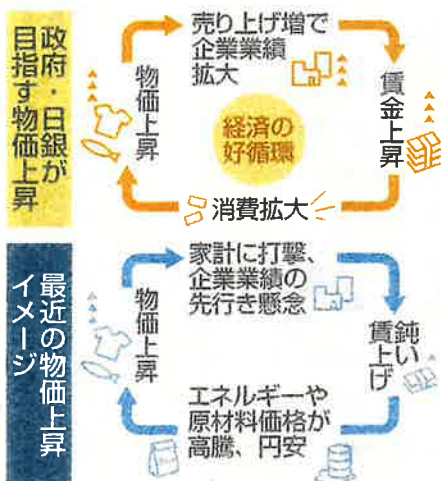
標を實現すると大見えを切ったから9年。しかし實現したのは、資源高と急激な円安がもたらした意図せぬ物価高だった。黒田氏は13日の講演で「単に物価が上がるだけでなく、賃金や所得が増える中で好循環が形成される必要がある」と淡々と語り、アベノミクスを主導した安倍晋三首相と二人三脚で目指した「デフレ脱却」の達成を意味しないと説明した。

足元ではむしろ、政府と日銀で政策の不整合が目立つ。日銀は金利上昇を抑え込む姿勢を崩さず、インフレ対応で利上げに動く米国などの金利差が開き円売りドル買いが加速。輸入物価の上昇に拍車をかけた。一方で岸田政権はガソリン価格抑制の補助金や困窮世帯への給付金などの物価対策を打ち出し、物価高への国民の不満を和らげようと躍起になっている。

主な品目の消費者物価指数の伸び率

	3月	4月
食パン	8.6	8.9
中華麺	2.0	9.8
食用油	34.7	36.5
電気代	21.6	21.0
ルームエアコン	▲2.6	4.3
携帯電話の通信料	▲52.7	▲22.5

※単位は%、前年同月比、▲はマイナス、総務省調べ



注目された今春闘は、経団連の第1回集計で賃上げ率が平均で2%を超えたが、内訳は定期昇給が大半を占め、所得全体を底上げするベースアップは力不足の印象を否めない。松野博一官房長官は20日の記者会見で「幅広く賃上げの流れが広がっていくよう取り組みたい」と強調したが、賃上げが勢いを欠く中で「悪い物価上昇」が続けば、2%目標を掲げ続ける正当性も問われる。

人事

上毛新聞社 (6月17日)

印刷担当(統括・印刷担当) 専務吉田典之(専務)(常務) 営業本部長・関連会社・特命担当関口雅弘(取締役・総務・経理・労務)

経営企画担当(役員待遇・高崎支社長) 高橋徹(6月18日 顧問(取締役・営業副部長) 萩原俊二(顧問・本社周辺整備事業調整役(取締役・総務・経理・労務・経営企画担当) 田中茂

ラインモ小容量 半年間実質0円

新規と乗り換え客

ソフトバンクは20日、携帯電話の割安ブランド「LIN

EMO(ラインモ)」の小容量プランに新規契約したり他社から乗り換えたりした利用者に、半年間ポイントを付与して基本料を実質無料とするキャンペーンを開始した。楽天モバイルが基本料0円からのプランを廃止するの

を機に、利用者が

対象となるの
本料が990円で
用できる「ミ
2728円で20ギガ
ラン」は対象外

大手企業賃上げ2.27%

22年春闘 4年ぶり改善
経団連が20日発表した2022

年春闘の第1回集計によると、定期昇給やベースアップを含む大手企業の月給の賃上げ率は平均2.27%となり、昨

年の第1回集計に比べ0.45ポイント上昇した。賃上げ率の改善は4年ぶり、00年以降では5番目の水準。回答額は1390円

増の7430円だった。新型コロナウイルス禍で落ち込んだ企業業績の回復を反映し、経団連は「賃上げ鈍化の

流れが
中国、
【北



過剰債務問題の発生と処理

(コロナ後の事業再生と債権放棄)

2022.05.09
2022.05.02
2021.12.13
2021.12.06
2021.11.15
2021.11.08
2021.11.04

1. コロナ前と現状と今後の懸念

(1) 保証債務の増加、売上等の急減と長期化

2020.01	20	兆円
2021.01 (2022.2)	40	(42)
補償債務残高の増加	20	(22)

(2) 政策金融機関のコロナ政策融資

15 兆円

(3) 公的機関等の信用リスク

35~40 兆円

2. コロナ対応の支援策の経済合理性 (転機)

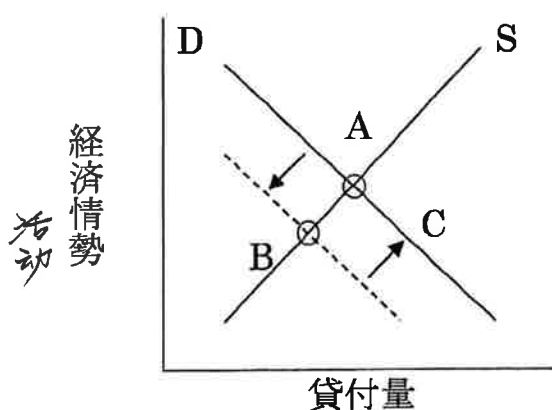
(1) 融資減少(資金不足)への緊急対応

(2) 将来の設備投資の大いなる停滞と「縮む日本」

(3) 事業再生の可否(事業の強さと人の強さ)

(4) 日本財政の将来

3. 貸付市場の需給曲線



A→B 融資減少→C 緊急対応

経済合理性の欠如
過剰債務問題の発生

コロナ後に、時間をつなげるか

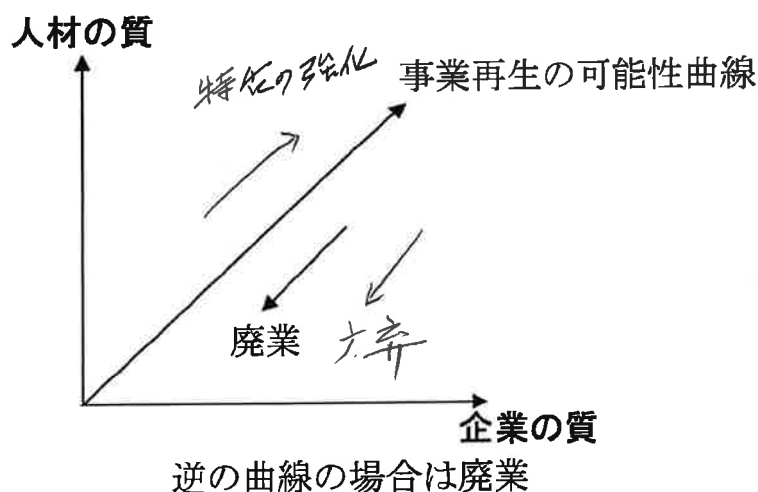
4. 過剰債務とバランス不況

- | | |
|----------------------------|-------------------------|
| (1) 緊急融資による企業債務の増加 | (今後の事業再生と債権放棄) |
| (2) 事業性の高い融資の縮小 | 緊急対応、選択の余地なし |
| (3) 過剰債務問題 | 不必要な債務— <u>過剰の削減の可否</u> |
| (4) 将来の不良債権処理 | 将来の国家的負担、事業再生、放棄 |
| <small>社会の過剰在庫の外処理</small> | |
| (5) 実質的な補助金としての緊急融資 | 融資の意義の誤り、当初から補助金で |

5. 事業再生に向けた将来の課題

- | | |
|-------------------|------------------|
| (1) 私的整理における債権放棄 | ②
必然（公的機関が中心） |
| (2) 事業再生への企業意欲と人材 | 必要（金融機関等専門機関） |
| (3) 信用保証協会の求償権問題 | 必至（国家的対応の必要性） |

6. 事業再生への企業の質と人材の質



- (1) 中小企業数 350 万社
- (2) 廃・休業数 年 5~10 万社(2~3%)
 バスの減少率、新聞購読者の減少率

7. ポストコロナ後の金融支援の課題

- | | |
|-----------------|----------------------------------|
| (1) 企業の質と人材の見極め | 絶対必要 |
| (2) 経営者保証の問題 | 避けてはならない |
| (3) 信用保証協会の求償権 | 保証の後→ |
| (4) 税制の問題 | |
| (5) 経営者意欲 | (1)～(4)を考慮した意欲の必要性
起業家イノベーション |

8. 今後生じる過剰債務問題

- | | |
|--------------------|------------------|
| (1) 資金繰の問題の長期化と経済 | 経済停滞への対応（必然） |
| (2) 経済回復の時期の想定的重要性 | 停滞を脱する方法と時の見極め |
| (3) 過剰融資の意義とその後 | 過去の経験
社会の過剰在庫 |
| (4) 資金の質の問題 | 及び債務者の責任と意欲 |

9. 企業再生の質と財務再建

- | | |
|---------------------|------------|
| (1) 客観的な財務判定 | 客観性とは、 |
| (2) 再生期間の見極めと再生の必要性 | 見極めてから再生作業 |
| (3) 企業の社会的意義 | 納得と理解 |

10. 企業の自己変革の克服すべき障壁

- (1) 見えない(可視化)
- (2) 向き合えない(現実の直視)
- (3) 実行できない(組織内外のしがらみ)
- (4) ついてこない(現場の当事者意識)
- (5) 足りない(課題解決の知見と経験)

11. 政策介入の合理性

- | | |
|------------------|---------------|
| (1) 情報の非対称性 | 政治的判断の短期性、恣意性 |
| (2) 必要な融資の出来ない原因 | 明確化、借りない幸せ |
| (3) 融資側の情報と方針の欠如 | 目的の明確性、意義の明確性 |
| (4) 金融仲介機関の役割 | 必要性、必然性の見極め |

12. 信用保証制度の効果と副作用

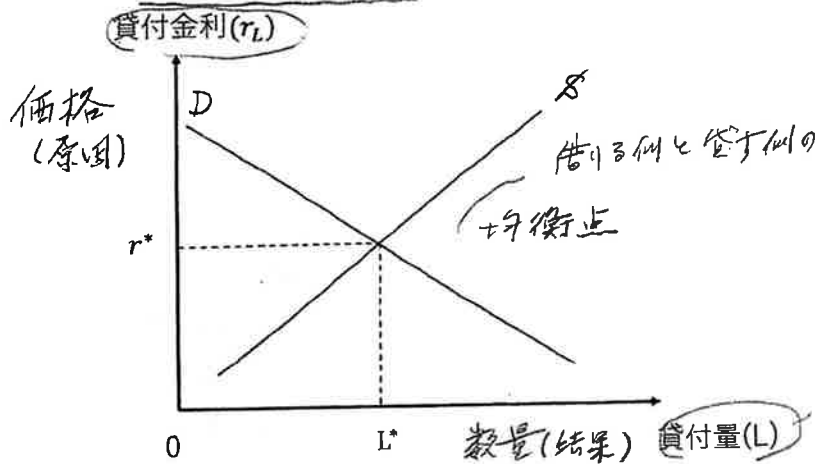
- | | |
|-----------------|-----------|
| (1) ゾンビ企業の問題 | 過去の苦い経験 |
| (2) 明確な経済的社会的意義 | 絶対に必要 |
| (3) 過去の失敗の反省 | 明確であった問題点 |

13. 貸付市場における情報の非対称と信用割当

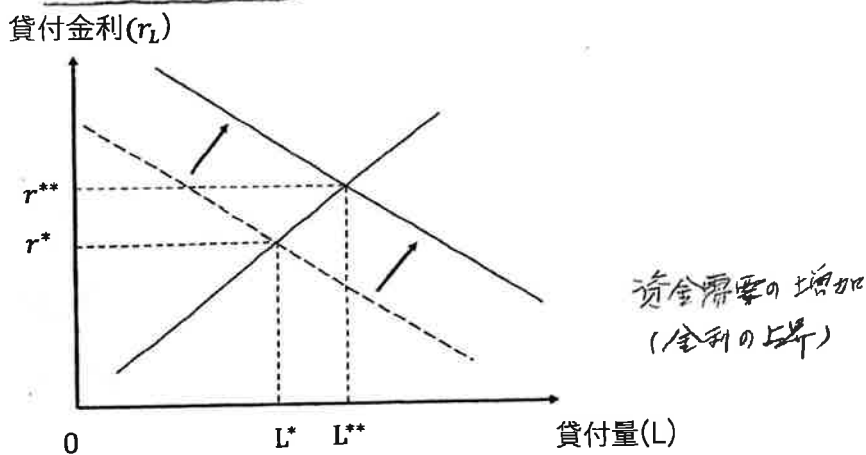
コロナ前	コロナ・経済の中断	コロナ後
企業の低活性 (借入過少、事業資金低)		債務超過、不良債権
ファンドの役割 3年のつなぎ 企業改革		ファンドの役割 金の面、財務の改革 人の面、労働生産性の改革
戻らないもの 必要でないもの		戻るもの 必要なもの

【図表1】貸付市場について：情報の非対称性の問題がないケース

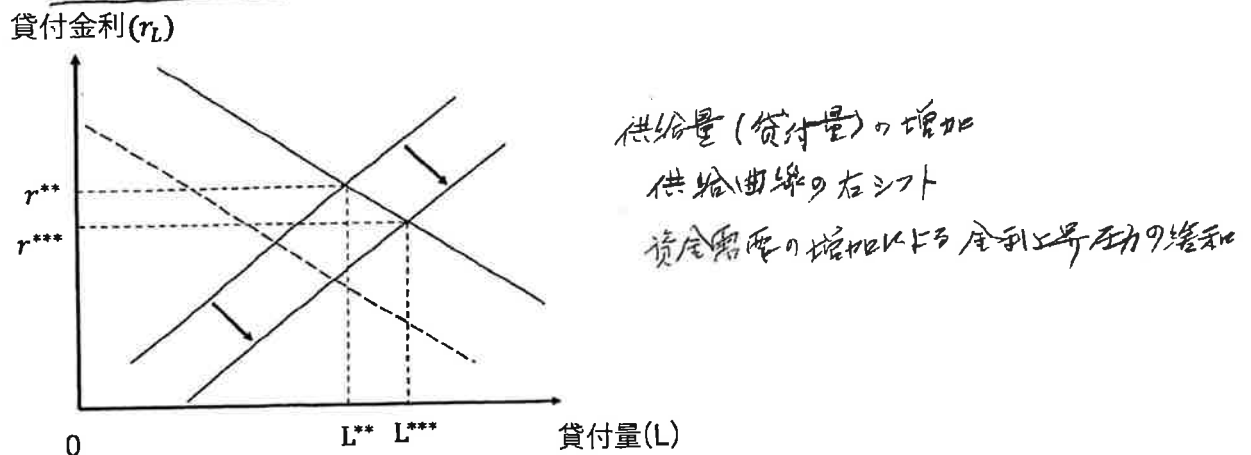
パネルA：貸付市場の市場均衡



パネルB：資金需要の増加による需要曲線の右シフト

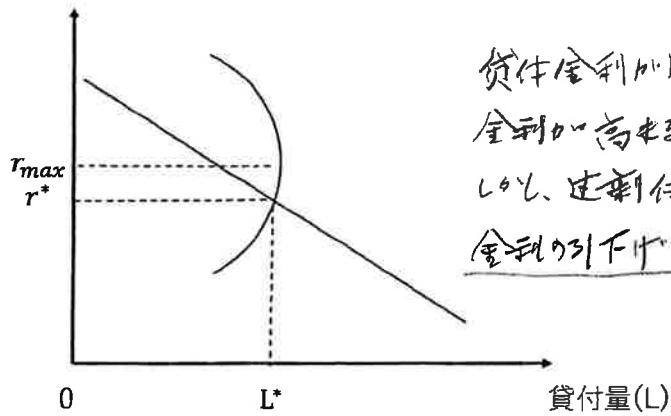


パネルC：金融緩和政策による供給曲線の右シフト



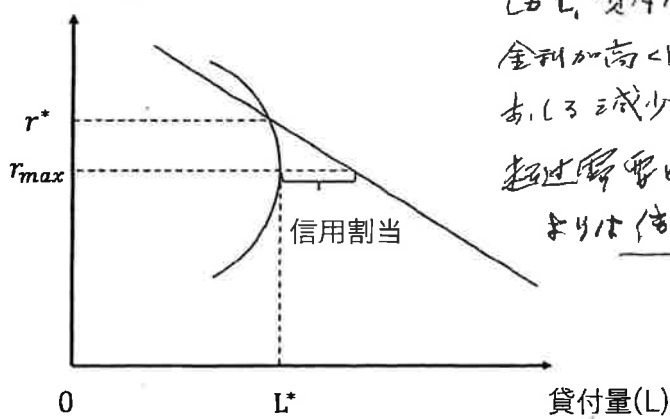
【図表2】貸付市場における情報の非対称性と信用割当の問題

パネルA：資金需要が低く、信用割当が発生しないケース

貸付金利(r_L)

貸付金利が比較的低い領域では
金利が高くなるほど資金の供給量は増加する
しかし、逆斜供給となった場合は、貸付において
金利を引き下げは合理的となる(金利は低下する)

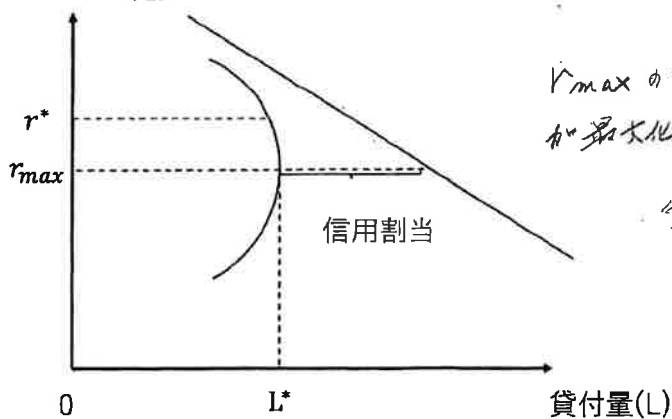
パネルB：信用割当が生じるケースその1

貸付金利(r_L)

しかし、貸付金利が一定の水準を超える領域では、
金利が高くなるほど、信用割当が生じ、貸付の供給量が
むしろ減少する

超過需要となったときは、貸付において金利を上げる
よりは信用割当を行うことが合理的である

パネルC：信用割当が生じるケースその2

貸付金利(r_L)

r_{max} の貸付金利水準のもとで、貸し手の期待利潤
が最大化されるので信用割当が生じる

貸付金利の水準を選別する

14. 企業再生に向けた実務的な課題

- (1) 税制によって生じるインセンティブ問題
- (2) 経営者責任の問題
- (3) 経営者の個人保証の問題
- (4) 信用保証協会の求償権の放棄の問題
- (5) 産業支援の重要性
- (6) 企業再生の必要性

15. コロナ後の復元力と反発力（バウンド力）

- (1) 世界各国の GDP 回復力
- (2) 復元力に必要なもの
- (3) 反発力に必要なもの
- (4) 財務体質の強化と方法
- (5) 労働生産性の改革（特に沖縄は）
- (6) ファンドによる事業再生（経営陣の派遣と3年前後）
 - ① 時間をつなぐ（資産処分の時間、劣後貸付）
借入と資本の中間の時間
 - ② 投資をしぼる（不要資産の処分、財務の明確化）
 - ③ ノンコア事業の整理（管理体制の強化、借換の実施）
 - ④ 給与体系の変更（職能給の導入、管理体制の強化）
 - ⑤ 事業の分割（余分、独立、旧経営からの分離）
 - ⑥ 財務体質（債権と担保の整理、株主構成の変革）
 - ⑦ " （資産処分と旧経営陣の退職）

1. 「史記」の記述の中にある「徐福」の話は興味深い。
史記の中に「秦の始皇帝」との係わりから、渤海の中の島(蓬萊、方丈、瀛州)を経て、海外(日本、沖縄、台湾)へと広がって行く。
2. 始皇帝は天下統一(前 221 年)の後、全国巡行の旅に出ており、その第 1 回目(前 219 年)と第 2 回目(210 年)に徐福は山東省の「琅邪」において、始皇帝と面談し、3,000 人の童男、童女と莫大な資金を持って海外へ行って戻らなかった。
3. 史記の正確性は定評のあるところであり、始皇帝の求めに応じて、仙薬を求めてという名目で、山東省の港から出航したのは間違いのないところである。
4. それを受けて、日本各地の徐福上陸の地と言われるところがあり、特に和歌山県の熊野、新宮市と富士山に定住したとされている。
5. 東シナ海を突っ切って、江南地方から済州島を経由して、日本の九州西海岸へたどり着くルートも考えられる。
6. 日本に「イネ」が伝わったルートと船は後世の「遣唐使船」のように平底船の不安定なものではなく、外用船で東シナ海を突っ切って日本へ到着したのかもしれない。
7. ともしれば「遣唐使船」の不安定さを思い浮かべるが・・・

(徐 福 伝 説)

史記の記録とは
全く別の伝説の世界
にはある。

1. 史記の記録は正確なものであるが、「徐福伝説」というと日本全国各地に広がっている。
遺跡等があるものだけでも、青森から鹿児島まで 20 数ヶ所に及んでいる。
2. 佐賀県には、徐福上陸地(浮盃)新北神社、徐福長寿館、金立神社など多くの徐福関係地とされるものがある。
3. 佐賀県の外にも、鹿児島県、宮崎県、三重県熊野市、京都府与謝郡伊根町、愛知県などに徐福上陸地とされるものがある。
ネットで見るとそれぞれに立派な神社や公園が建てられている。
4. ネットの中で、「徐福伝説一邪馬台国」の記事の中で、中国大陸から横に見た日本海と愛知県立大学大学院「遠志保先生」の記事は興味深かった。

5. 朝鮮半島と九州の距離も近く、

中国南方と九州も 済州島をへて九州に近く 伝説の可能性が
ある。



文

化

青森から鹿児島まで
徐福は数千人の童男童女、五穀の種、技術者らを乗せて船出した。一行

いつの世もこの国で
も、人間が長寿を望む気持に変わりはなく。秦の始皇帝が不老不死を切望したために生まれたといふ「徐福伝説」の広がり

は、そんな人々の思いを、如実に伝えている。私は、この伝説について研究を続けてきた。

約二千年前、中国・秦の時代。神仙の術を持った徐福は始皇帝から、不死の薬を探す命を受けた。極端な言い方

にすると始皇帝が、最後に望んだのは長寿であった。その執念は、当時末期の地と言われていた東方にも目を向けさせた。

青森から鹿児島まで
徐福は数千人の童男童女、五穀の種、技術者らを乗せて船出した。一行

いつの世もこの国で
も、人間が長寿を望む気持に変わりはなく。秦の始皇帝が不老不死を切望したために生まれたといふ「徐福伝説」の広がり

は、そんな人々の思いを、如実に伝えている。私は、この伝説について研究を続けてきた。

約二千年前、中国・秦の時代。神仙の術を持った徐福は始皇帝から、不死の薬を探す命を受けた。極端な言い方

にすると始皇帝が、最後に望んだのは長寿であった。その執念は、当時末期の地と言われていた東方にも目を向けさせた。

青森から鹿児島まで
徐福は数千人の童男童女、五穀の種、技術者らを乗せて船出した。一行

いつの世もこの国で
も、人間が長寿を望む気持に変わりはなく。秦の始皇帝が不老不死を切望したために生まれたといふ「徐福伝説」の広がり

は、そんな人々の思いを、如実に伝えている。私は、この伝説について研究を続けてきた。

約二千年前、中国・秦の時代。神仙の術を持った徐福は始皇帝から、不死の薬を探す命を受けた。極端な言い方

にすると始皇帝が、最後に望んだのは長寿であった。その執念は、当時末期の地と言われていた東方にも目を向けさせた。



青森県小泊村にある徐福像

は後に日本へたどり着き、農耕文化や製紙などをもたらしたと伝えられる。司馬遷の「史記」では徐福の出發を紀元前一

一九年と記している。

この徐福渡来伝説が伝わるのは、青森から鹿児島まで二十数カ所に及ぶ。中国では徐福の故郷が一九八二年に確認されて以来、存在は事実として、国をあげて盛んに研究が行われている。これ

に対し日本では考古学上の発見などはなく、三千年以上も前から、それぞれの地域で郷土史家らが伝承を整理してきた。

徐福伝説のある各地を訪れるうちに、さまざま

な伝説、伝説を取り囲む多くの人と出会った。佐賀市金立町では徐福への感謝の気持ちから、農耕

善金医薬の神として神社にまつられている。和歌山県新宮市では、徐福の墓が公園の中にあり、人々に「徐福さん」と呼ばれ親しまれている。

徐福が探していた不死の薬も、三重県熊野市では薬草の天台山(三)薬八丈島ではアシタバ、佐賀県各地ではクロフキなど各地に自生する特徴的な植物である。

臨終で地元で謝意伝説の伝わり方が興味深く、調べて調査している地域が二カ所ある。一つは、毎年一月二十日に徐福の祭り「童男山ふす

にまつられている。和歌山県新宮市では、徐福の墓が公園の中にあり、人々に「徐福さん」と呼ばれ親しまれている。

徐福が探していた不死の薬も、三重県熊野市では薬草の天台山(三)薬八丈島ではアシタバ、佐賀県各地ではクロフキなど各地に自生する特徴的な植物である。

臨終で地元で謝意伝説の伝わり方が興味深く、調べて調査している地域が二カ所ある。一つは、毎年一月二十日に徐福の祭り「童男山ふす

日本の徐福伝説 永遠の命

◇始皇帝の使者、不老不死求め各地に様々な顔◇

達 志 保

も一つは熊野市波田町だ。今もなお人々が「徐福さま」と語るこの土地では、徐福は祭神である。もともと「秦住」と言いたと伝わるこの地では、中国人らしい顔、を意味する「波田須領」という言葉も残っている。



(つじ・しほ) 愛知県立大学大学院

徐福の愛をテーマに書いた卒論は、「徐福伝説」として出版もされた。

きた。

徐福伝説については、はっきりしたことは何分かっていない。だからこそ、各地の伝説に沿った多様な顔があり、それが地域の中で生き続けている。人々に夢を与え、豊かな伝説の世界を、一から掘り起こしてきたい。

本が出ると、伝説の伝わる土地から様々な反応があった。徐福を取り巻く人々の姿に別の魅力を感じた。九九年から再び大学院で研究を始めた。

韓国でも研究熱

研究の熱は日中だけでなく、韓国にも及んでいる。徐福が渡来したという伝説がある済州島で昨年四月、済州島学会が初めて徐福をテーマにした国際学術大会を開き、日本からの四人の一人として出席した。徐福を東アジア共通の素材として毎年大会を開くことが決まった。北京でも昨年六月中国徐福会主催の徐福国際学術検討会が十年ぶりに開かれた。中国で徐福は、日本に文明をもたらした歴史上の英雄として取り上げられている。

徐福伝説については、はっきりしたことは何分かっていない。だからこそ、各地の伝説に沿った多様な顔があり、それが地域の中で生き続けている。人々に夢を与え、豊かな伝説の世界を、一から掘り起こしてきたい。

徐福伝説については、はっきりしたことは何分かっていない。だからこそ、各地の伝説に沿った多様な顔があり、それが地域の中で生き続けている。人々に夢を与え、豊かな伝説の世界を、一から掘り起こしてきたい。

徐福伝説については、はっきりしたことは何分かっていない。だからこそ、各地の伝説に沿った多様な顔があり、それが地域の中で生き続けている。人々に夢を与え、豊かな伝説の世界を、一から掘り起こしてきたい。

徐福伝説については、はっきりしたことは何分かっていない。だからこそ、各地の伝説に沿った多様な顔があり、それが地域の中で生き続けている。人々に夢を与え、豊かな伝説の世界を、一から掘り起こしてきたい。

徐福伝説については、はっきりしたことは何分かっていない。だからこそ、各地の伝説に沿った多様な顔があり、それが地域の中で生き続けている。人々に夢を与え、豊かな伝説の世界を、一から掘り起こしてきたい。

徐福伝説については、はっきりしたことは何分かっていない。だからこそ、各地の伝説に沿った多様な顔があり、それが地域の中で生き続けている。人々に夢を与え、豊かな伝説の世界を、一から掘り起こしてきたい。

徐福伝説については、はっきりしたことは何分かっていない。だからこそ、各地の伝説に沿った多様な顔があり、それが地域の中で生き続けている。人々に夢を与え、豊かな伝説の世界を、一から掘り起こしてきたい。

徐福伝説については、はっきりしたことは何分かっていない。だからこそ、各地の伝説に沿った多様な顔があり、それが地域の中で生き続けている。人々に夢を与え、豊かな伝説の世界を、一から掘り起こしてきたい。

徐福伝説については、はっきりしたことは何分かっていない。だからこそ、各地の伝説に沿った多様な顔があり、それが地域の中で生き続けている。人々に夢を与え、豊かな伝説の世界を、一から掘り起こしてきたい。

徐福伝説については、はっきりしたことは何分かっていない。だからこそ、各地の伝説に沿った多様な顔があり、それが地域の中で生き続けている。人々に夢を与え、豊かな伝説の世界を、一から掘り起こしてきたい。

徐福伝説については、はっきりしたことは何分かっていない。だからこそ、各地の伝説に沿った多様な顔があり、それが地域の中で生き続けている。人々に夢を与え、豊かな伝説の世界を、一から掘り起こしてきたい。

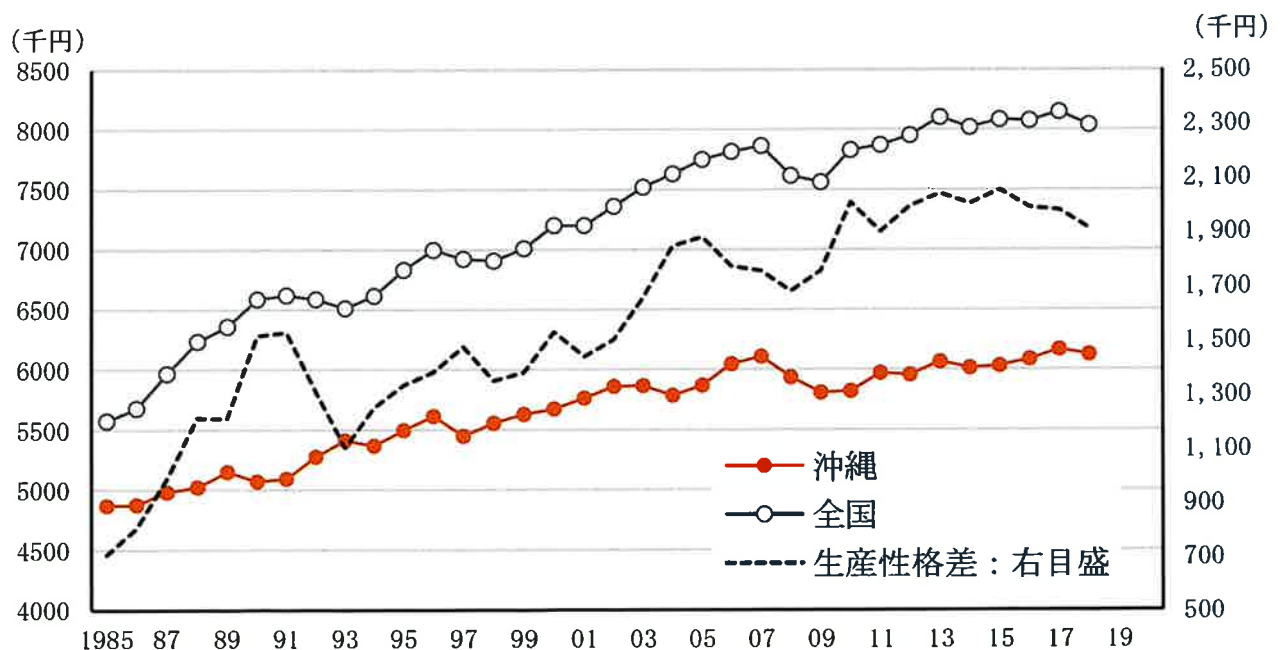
徐福伝説については、はっきりしたことは何分かっていない。だからこそ、各地の伝説に沿った多様な顔があり、それが地域の中で生き続けている。人々に夢を与え、豊かな伝説の世界を、一から掘り起こしてきたい。

今後の沖縄産業をどうするか

2022.05.2
2022.04.11
2022.03.21
2022.03.14

No.	項目	事情	備考
1.	今まで、県などの諸々な提言はあったが、見るべきものはない	(1) 机上の空論にすぎない (2) 実現性がない (3) 現場を理解していない (4) 現状を動かす力がない (5) レベルの低いアイデアレベル (6) 美辞麗句のレベル (7) 実現性の低いアイデア	後、おの美辞麗句を 今更にはきいて
2.	現状、例えば労働生産性を向上できるか	(1) 復帰後、本土との格差はつめられていない (2) 低いレベルからの上昇のう勢ではダメである (3) 現状を具体的にどう動かすか (4) 地に足ついた <u>稼ぐ力</u>	後、おの稼ぐ力

図表 沖縄と全国の労働生産性（実質 GDP／就業者）の推移



出所：株式会社おきぎん経済研究所 「労働生産性向上に向けた調査 調査報告書」（令和2年3月）

No.	項目	事情	備考
-----	----	----	----

3. 長谷川先生の場合 (多岐)

改めて、読ませていただき、「将来に向けて」で先生の論じられている点に集中すべきだと思いました。

強味

(1) 短期間で、観光、建設業、医療介護など、沖縄県の主要産業の生産性の改善と事業承継といった構造的な課題を同時に解決して、

(2) 県外リソース(人、資金、情報)を積極的に呼び込む仕組みを作り、県内企業の活性化を図ることも有用であろう。

シヤンズ

という 2 点に注力して、沖縄の格差を解消することに実現性を感じました。

このうち、(2) については、県内資金もしっかりと使って、かつ県外リソース(資金も含む)を上手く活用しながら、県内での資金活用の果実を県内に還元する仕組みも必要と考えています。

沖縄では、全て県内だけでやろうとするケースも良く拝見しますが、その範囲で取組んだ結果として、美味しい所は県外資本に持って行かれて、結局、県内は低生産性の仕事を細々と続ける結果になっていると考えております。

何か多少でもお力になればと考えております。
引続き宜しくお願い致します。

強味を認識し、(主要産業に注力する)

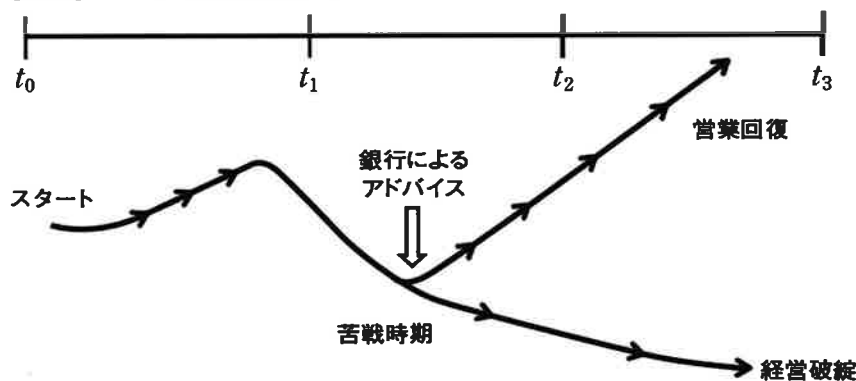
他社を生かす、(県外等からの力を生かす)

No.	項 目	事 情	備 考
-----	-----	-----	-----

4. 吉野直行先生の場合 (多岐)

コロナにより打撃を受けている企業に対する保証は不可欠であるが、【図表】に示されるように、一時的に売上げが下落している企業と、構造問題を抱えており、観光客の再来があっても再生が困難と思われる企業がある。後者の場合には、借入継続という政策では不十分で、むしろ、事業転換のための資金の提供が必要である。

【図表】 コロナ後の事業再生



沖縄という気候に恵まれ、アジア諸国に近いという立地を生かし、(多岐)
日本社会の高齢化という構造問題の解決の場を提供し、観光ばかりでなく、地元の産物を、日本、アジアに販売していれば、リスク分散がなされることになると考えられる。沖縄のみなさまにより、さらなる発想が、実現へと向けられるように、クラウドファンディング(チャンス)によって、資金が集められる手法を確立し、いろいろな新しい挑戦を続けていただきたい。

crowdfunding

crowd (群衆、多くのひと) に出資を求めると。

不特定多数の人から インターネットを介して資金を集めること。

ソーシャルファンディング、マイクログランディングもいう。

No.	項 目	事 情	備 考
-----	-----	-----	-----

5. 現状の改善と将来の対応

(1) 現状の改善(認識と方向の明確化)

- ① 労働生産性の現状の認識
- ② 課題の明確化
- ③ きっかけ、課題解決の方策
- ④ 方策への注力、努力、コスト注入
基幹産業の特定
基幹産業の育成、強化

強味を見につける

(2) 将来への対応と方策(注力の方策)

- ① 県外情報の活用
- ② 県外資金の活用
- ③ 県外人材の活用
- ④ 再生事業の見極め
- ⑤ 県内資源の活用と輸・移出

チャンスを生かす

本土復帰50年之际に

沖縄振興50年の制差感が嘆かれています
各分野復帰軽減措置は、今回も継続され

2030年中心は当然の如くあります

期限の延長は50年に及ぶ。自立の到達は明かにはならず

支援、特例等は解決すべき問題ではない

特例をたいて排除する気持が必要と云う

そうしなければ所得向上はできない！

No.	項 目	事 情	備 考
-----	-----	-----	-----

6. 稼ぐ力(付加価値)の充実向上ができるか

県の「稼ぐ力」より

- (1) 労働者(一人当たり)の向上
 - ① 賃金の高低
 - ② 熟練度
 - ③ 技術進歩、生産技術
 - ④ 労働生活の質
 - ⑤ 環境との調和
- (2) 資本・設備の充実、高度化
 - ① 資本集約度
 - ② 技術進歩
 - ③ 設備レベル
- (3) 有効利用の向上
 - ① 生産課程における効率性
 - ② 新たな使用(価値)
 - ③ 新製品開発
 - ④ 新たな観点
- (4) 生産性＝産出／投入

2030年の新・経済21世紀と2022基本計画の要約

「稼ぐ力強化」へ向けて

目標は当然と妥協があるが、その裏面に具体性があり、
足元は明確で、現実的に行動指針になっている。

中期的に現状を踏まえて、現実的に構想が必要である。

「今後20年、今後20年」という地味な希望を作文で示す

No.	項 目	事 情	備 考
-----	-----	-----	-----

7. 付加価値の検討

		売上高	
(1)	貢献利益	外部価値－ 仕入高、原料費、外注費 (地代、家賃、諸経費などが外部購入経費は除けない)	
(2)	〃	付加価値－人件費、償却、その他、損益 (固定費)	
	=	付加価値 ①労働②設備③その他④損益 (後述利益)	
		①、②、③、④の稼ぎ	

8. 付加価値の増加

A 生産量 up

B 支払 down①向上②向上③ ④
効率化 効率化 効率化

第 90 回勉強会 (2021 年 12 月 8 日)

沖縄県における事業再生と事業継承について ウィズコロナ／コロナ後の 2025 年に向けて

講 師 株式会社ジェイ・ウィル・パートナーズ
パートナー 長谷川 英司 氏

紹介者 プライム・アドバイザー・サービス合同会社
代表 佐々木 健仁 氏 (参加者 28 名)

演題の通り、「ウィズコロナとコロナ後の 2025 年に向けて」、沖縄も全国も事業の再生や復元に取組む必要がある。この時宜を得た、最も重要な課題と方向を伺うことができた。

講義は、前半の「沖縄経済の特色の把握、感想」と、後半の「ジェイ・ウィル・グループの取組事例の独自のポイント」についてであった。

会場の参加者は、講師の解り易い、新鮮な感覚にいつも以上に集中して講義を受けていた感があった。

ジェイ・ウィル・グループの紹介の後、前半は東京の投資ファンドから見た「沖縄経済の各種データについて」ということで、全国比と沖縄の労働生産性の特色などを概観された。特に興味深かったのは、(1)コロナ下における沖縄企業の復元力、全国と比べてその弾力性であった。「くしゃくしゃにした紙」が、元に戻る回復力が沖縄にはある。コロナという断層を経た企業力の要はその弾力性にあると思った。

(2)コロナ後の 2025 年における全国と沖縄の再生力と沖縄の人口増が停滞し始める時期の前の対応に関心を持った。

後半はジェイ・ウィル・グループによる再生案件と関与事例が多く語られ、具体的に示唆に富んだ内容であった。

ポイントを述べると

- (1) ファンド活用は期間限定、企業の再出発を支援
- (2) 借入と資本について、時間をつなぐという発想と技法
- (3) 再生、課題解決の鍵は、会社の現場にあるという考え方
- (4) 企業に足りない機能補完として効果的な外部人材（経営陣含む）の活用
- (5) ファンド活用により、ノンコア事業の整理可否を検討、社内の経営人材を育成
- (6) 月次決算等による現場情報のデジタル化と関係者による共有

質疑の時間は、日本銀行那覇支店長 飯島浩太氏と講師の対話的なやり取りが、沖縄経済の新しい面と今後の方向という点で有益で興味のあるものであった。

